

## 軽米町百人委員会第2回しごと・観光部会議事録

○開催日時：平成30年10月16日（火） 18時30分～20時20分

○開催場所：軽米町役場2階会議室

○出席者

委員 21名中9名出席

事務局：産業振興課 小林、日脇、畑中、長瀬

再生可能エネルギー推進室 戸田沢

税務会計課 小笠原

総務課 吉岡、梅木、日山

○開会

（事務局）皆さん、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より軽米町百人委員会第2回しごと・観光部会の会議を開催いたします。はじめに、部会長さんからご挨拶をお願い致します。

（部会長）おぼんでございます。お疲れのところ大変ご苦労様でございます。私の方も稲刈りやたばこの関係で忙しくしておりましたので、今日は皆様からいい意見を出していただいて、早めに終わりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

（事務局）ありがとうございました。まず始めに、資料の確認をしたいと思います。A4版の1ページから8ページまでが本日の資料となります。8ページには前回までのしごと・観光部会の出席状況について載せております。9ページ以降につきましては、開催通知と一緒に前回の議事録を送付いたしました。一部訂正がございました。出席者委員について、21名中8名出席と記載してお送りしておりましたが、前は9名の出席でしたので、訂正した議事録を添付しております。次にA3版の図面の資料になりますが、先日10月4日に第12回かるまい交流駅建設検討委員会を開催いたしまして、第11回から第12回までの間に文化協会さん等からご意見をお聞きして、一部図面を修正しておりますので、協議1のところでご説明したいと思います。資料については以上でございます。それでは設置要綱の第7条に基づきまして、協議につきましては部会長さんから進行をお願い致します。

（部会長）それでは早速協議に入ります。協議事項1のかるまい交流駅の進捗状況について、事務局から説明をお願い致します。

（事務局）それでは資料の1ページ目をご覧ください。平成28年5月18日かるまい交流駅（仮称）整備事業が動き始めてからの内容を記載した資料でございます。2ページ目の82番でございますが、平成30年8月10日に軽米町百人委員会第1回しごと・観光部会で進捗状況についてご説明しております。83番の8月22日に教育委員会と、大ホールと図書館のレイアウト変更に係る図面の確認等を行っております。84番の8月31日に軽米町文化協会さんの第4回理事会の方に出席させていただきました。大ホールの内容等についてご説明申し上げております。85番9月10日でございますが、同じく文化協会さんの第5回理事会に出席いたしまして、8月31日に出示された意見等に基づいて図面を修正したうえでご説明いたしました。その内容に基づきまして、10月4日第12回建設検討委員会を開催いたしまして、文化協会さん及び図書館協力会さんから出示された意見を基に図面を修正したものでご説明申し上げて、最終的な了解をいただいております。第1回の部会以降の進捗状況については以上となります。図面をご覧ください。こちらは10月4日の建設検討委員会で皆様方からご了解いただいた最終的な図面でございます。変更した内容については、1階多目的ホールの客席が以前は430席程度でしたが、文化協会さんからステージの奥行きが8m50cmでは狭すぎると

いうご意見が出されました。よさこいや交響楽団等の様々なイベントを行う際に、ステージに演者が乗り切らないということで、ステージの奥行きを11mに変更いたしました。それに伴いまして、客席が30席ほど減り400席とした図面でございます。図面右側になりますが、以前は第1会議室と第2会議室を大きく設計しておりましたが、8月に滝沢市のビックルーフという昨年オープンした新しい施設を視察研修いたしまして、施設利用率の資料をいただきました。大きい部屋はあまり使われないという傾向があり、防音の小さな部屋の利用率が非常に高いということで、真ん中辺りからスタジオ1、スタジオ2、小会議室を新たに設置し、その右側の第1、第2会議室を多少コンパクトにした図面になっております。1階の主な修正部分については以上でございます。次に2階の修正部分についてですが、教育委員会の図書館担当の方と実際に図書館で業務をされている協力会の皆様方から意見をいただいて、カウンターの位置や小さいお子さんの閲覧場所のレイアウトを変更しております。スペース的には変更はございません。こちらが今現在の最新版の図面案となっております。これに基づいて詳細な自身の図面等の作成を進めている所でございます。交流駅の進捗状況等についての説明は以上でございます。

(部会長) ありがとうございます。ただ今事務局から進捗状況についての説明がありましたけれども、皆さんの方から質問等ございますか。

(委員) 会議室は和室か洋室か、それとも両方あるのですか。

(事務局) 和室の会議室は2階でございます。図面2ページ目の研修室3が和室になります。それ以外の会議室は全てフロアになります。他にも1階のバス待合スペースに一部6畳ほどの和室を設けています。それから、現在検討中の部分がございます。1階の右側のバス待合スペースからトイレに向かう廊下が上の方からずっと続いていますが、この廊下を含めて待合スペースを広くしたうえで、その部屋から下の方へ通路を設けてトイレに行けるようにした方が有効的に使えるのではないかという意見が第12回の建設検討委員会でも出されまして、現在設計会社さんで検討していただいております。その部分については一部変更が出る可能性がございます。

(委員) 確認ですが、2階のトレーニングルームの更衣室にはシャワーはありますか。

(事務局) シャワーは設置してございます。

(委員) 会議室は結婚式ができたりしますか。

(事務局) 会議室1、2では結婚式ができるほどの広さにはならないです。ただ、ステージのある大ホールには100席の取り外しが可能な仮設の客席と、廊下側に全て収納できる電動式の客席が300席ございますので、フラットなスペースとして使用いただけます。

(部会長) その他何かございますか。なければ協議事項1は以上でよろしいでしょうか。それでは協議事項2、地域資源を生かした産業の活性化について事務局から説明をお願い致します。

(事務局) 資料の3ページ、4ページをご覧ください。これは昨年度の第1回から第3回までの部会で皆様から出していただいた意見を7つの項目に分類したものでございます。5ページから7ページまでは皆様から出していただいた意見を更に分類したものになります。前回の部会では分類1から分類3まで意見を出していただいておりますので、今回は分類4から分類7についてご意見を出していただきたいと思っております。始めに分類4からご説明いたします。分類4は情報に関する意見を分類したものでございます。出された意見の内容は資料のとおりです。これらの意見をもう少し掘り下げていただいて、軽米町の仕事と観光に結び付けていくためには、自分たちあるいは地域で何かできることはないだろうか、行政としてこういうことをやったらいいのではないかと考えていただきながら

- ら、公民連携した町づくりに繋げていくための意見を出していただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。
- (部会長) それでは最初に分類4について皆さんの意見をいただきたいと思います。一週間ほど前ですが、ハイキューの観光客が来ていたようですが、何かイベントがあったのですか。
- (事務局) 軽米高校の文化祭がありました。今年の来客数は450人程度だったということでした。小学生以下はカウントしていないので、中学生以上の人数になります。昨年は600人程度だったということでしたが、小学生以下のお子さんがあまり多くなかったということです。今年は人数が少ないように思えますが、子どもたちが多かったため昨年と比べてもそれほど減っていないのではということでした。
- (委員) 軽高祭は役場で情報を発信しているのですか。
- (事務局) 役場では発信しておりません。軽米高校で発信しています。
- (委員) 今年の軽高祭に行ってみたのですが、ハイキューの観光客もかなり来ていました。次の日にはバスツアーで龍泉洞に行ってそのまま帰ったりしたようです。せっかく来ていただいているのだから、お金をかけずに軽米の良さを感じてほしいと思います。以前も提案しましたが、案内図を作ったり既存のパンフレットをバスの停留所等の目につくところに置いたり、町をきれいにするためにごみポストの位置を示した地図を作ったり。そういったものがあれば、ハイキューの方や帰省して来た方が目にとると、こうゆうものがあるんだと分かりやすいと思います。台風の後には橋の付近だけでもかなりのごみが溜まっていてそのまま放置されているので、ごみポストのようなものがあるといいと思います。同じようなことを半年以上も前に提案しましたが、いつ具体化されるのでしょうか。
- (事務局) 百人委員会のスケジュールでは、昨年度の第1回から第3回までの部会で検討した結果を全体会で中間報告をして、今年度第1回と第2回の部会で出された意見を集約して提言書を作成します。その中で来年度から予算化して取り組めるものについては、今年度中に予算化していくように考えております。
- (委員) ハイキューのマップを作ったらどうかという依頼が県かどこからか来ていて、商工会で検討しています。経産省の偉い方がハイキューのファンだそうです。町の指導書にもハイキューを利用して町を元気にしたらいいのではという書類も来ていまして、補助金も出るようです。中身に関しては、ここが原画の町だという紹介だけだと面白くないので、先ほどの意見にもあったごみポストなんかの実現できれば、そういった情報をマップに載せていけば面白いのではないかなと思っています。
- (委員) トイレの場所もマップに載っているといいと思います。
- (事務局) 総務課で作ったマップもありますので、ハイキューのお客様にはそれをお渡ししています。
- (委員) 先日の交流駅検討会で小軽米の月山神社に海外の観光客が来たという話がありましたが、ハイキューの漫画に出てくるから来たのか、誰かが案内しているのですか。
- (事務局) 小軽米の月山神社自体は漫画には出てこないです。漫画では八幡宮の階段でトレーニングをしている場面が出てきます。月山の月と山ですが、漫画の登場人物に「月島」と「影山」というキャラクターが出てきます。それが合体した名前だというだけで、ファンの方は楽しいそうです。総務課で作成したマップにも月山神社を載せているので、それを見て行かれているようです。
- (委員) 岩泉君という人が登場するから岩泉の龍泉洞に行ってみたり、松川君が登場すれば松川温泉に行ってみたりしているようだ。
- (委員) 今年の夏祭りに台湾のハイキューファンの方が流し踊りに参加したいということで役場や商工会に問い合わせたようですが、対応できないということで大清水

旅館から笹渡の子ども太鼓で受け入れてほしいということで、3人の方と一緒に踊りました。3人のうちの1人は今回で2回目の訪問だそうで、軽米でそういったイベントがあるという情報を得ても、こっちに来てみたらどうやったら参加できるのか等の情報がなかったということでした。現在もラインでやり取りをしていますが、また軽米に来たいと言っています。海外の観光客も増えている中で、私たちが知り得ない形で情報を得て軽米に来ているということを知ることも必要なのではないかと思います。国内からも、東京や大阪、名古屋など各方面から知らない人たちが集まって団体で来ているようです。そして軽米でファン同士の交流をしているようです。官民連携して情報を発信することによって軽米の観光や産業を発展させていくためには、町全体で情報を共有する必要があると思います。役場や町民でバラバラなことをやっているとダメだと思います。先ほどのマップに関しても、役場でも作ってまた新しく作るとなると二重の作業になるので、町全体で一本化して、既にあるマップをどう活かせばいいかを考えていけばいいのではないかと思います。

(事務局) 流し踊りの件については、参加者の方が商工会に問い合わせをしたのですか。

(委員) 大清水旅館が最初に役場の窓口へ直接行って、その後商工会に行ったということでした。商工会でも個々での参加はできないということで、たまたま事務局長さんを知っていたので笹渡子ども太鼓の方でどうですか、と言われたということでした。

(委員) 組織のことがよく分からないのですが、観光協会が窓口になって全ての情報をまとめて、そこに聞けば何でも分かるという体制はあるのですか。普通は観光協会に聞けば、どこに行けばいいのか教えてくれる体制が整っているのですが。観光協会の事務局はどこにあるのですか。

(事務局) 産業振興課の商工観光担当です。

(委員) そういった問い合わせはどれくらいありますか。

(事務局) あまり多くはありません。

(委員) 今の体制は問い合わせ先がみんなバラバラなので、それをまとめなければいけないと思います。

(委員) 観光に関することは全て観光協会に問い合わせてくださいというような形で一本化して周知するべきだと思います。

(事務局) 確かに他の市町村を見ても観光協会はとても大きな役割を担っていますが、軽米町のような弱小市町村ではほとんど自治体が兼務している状態です。大きな市町村になると、法人化して財源を確保しながら独自のイベントを企画したりしています。軽米町では商工観光の通常業務と兼務しているため、なかなか思うようにできていないのが現状です。窓口の体制ができるのが望ましい状態だと思いますし、法人化してはどうかというご意見も議会でいただいているのですが、そのためにはお金がかかりますので、どうやって予算を確保するかというところで現状では厳しい状況です。

(委員) 将来的にはそういった構想があって実現できればいいのですが、現状は役場の業務と兼務していてなかなかできないという状況も分かります。しかし、一本化していくためには、例えば嘱託の人を置いて問い合わせがあった場合には全てこちらに来てくださいという形を整えるべきだと思います。

(事務局) 結局は人材の確保ということになりますが、臨時の人を雇うにしても5年10年と長く居られる人が育てばいいのですが、辞めるとなるとまたゼロからという状態が続いています。常時人がいるような環境を作ることが大切だということを感じています。

- (委員) お客さんが気持ちよく来て気持ちよく帰っていくようなことが繰り返されていくと、軽米っていいとこだっけよってということが広がっていくと思います。そのために必要な体制を整えていくことが重要だと思います。
- (委員) よそから来た人はどこに何を聞いたらいいか見当もつかない状態で来ている。今までは観光で訪れる人がそんなにいなかったが、近年増えていることで観光以外の分野でも改善されてきている部分もあるので、観光協会の法人化を考えながら受け入れる体制を整えていかなければいけないと思う。
- (事務局) 今のご意見は、大変いい提言書ができるのではないかと思います。
- (委員) 太陽光の工事は佳境に入って来年度は完成するものもでてきますが、それに向けて視察研修の名目で来るお客さんを観光に結び付ける方法を役場では考えていますか。
- (事務局) 観光に結び付けるということ言えば、事業者の方でミレットパークの周辺に太陽光の施設を展望できるような施設を造っていただけという話をいただいておりますので、そちらは取り組んでいきたいと思っております。
- (委員) これはかなり大きな問題だと思います。太陽光が完成すれば、自治体や各種団体の単位でかなりの来客が見込めると思います。その際に施設だけ見せて帰すのではなく、観光施設を有効利用できるような形に持っていけないものかなと考えています。
- (事務局) 来た方にはお昼を食べてもらったり、お土産を買ってもらったりということは考えています。
- (委員) 食事や宿泊もそうですが、土産品なんかも対応できることがあると思います。フォリストパークやミレットパークを少し整備して、そちらの方にも足を運んでもらえるようなコースを作っておかなければいけないと思います。町村レベルでこれだけ大規模な施設を造るのは全国的にもすごく注目されていると思います。全国各地から来客があるのではないかと考えています。
- (事務局) その件に関しては、商工観光担当と協議していきたいと考えています。
- (委員) 機会があるごとに協議して、皆さんの意見を集約して話を進めていっていただきたいです。
- (事務局) せっかくできた施設なので、町のために活用できるような体制を整えていきたいと思います。
- (委員) 以前もバイオエネルギーの関係で同じような話が出ていた。風力はなくなったのか。
- (事務局) 風力の計画もありますが、まだ時間がかかるかと思えます。
- (委員) 風力まで完成した時には、クリーンエネルギーが一通り見られるようになる。そうなったらすごい町になると思います。そういったことをインターネット等で発信できるようなPRの方法を今から考える必要があると思います。
- (委員) 宿泊施設は二戸や八戸になってしまうのでは。
- (委員) 町内の個人業者では手一杯の状態。宿泊施設を造るにも億単位になってくる。足りない部分は近隣の市町村で補ってもらえばいいと思います。できることをやるという発想でないと手に負えない。
- (委員) 天気の良い日にミレットパークの上から見ると、工事している所が一望できるので、完成したらすごい景色になる。
- (委員) いかにも見たくなるようなPRをすれば、溢れるくらい人が集まってくると思う。
- (委員) 今出たような意見をしごと・観光部会から提案すれば、役場職員の方が提言するよりも効力があると思うので、どんどん意見を出すべきだと思います。
- (部会長) 分類4の情報に関しては以上でよろしいでしょうか。それでは分類5の人材のテーマに入ります。今まで話していた内容も人材のテーマに関わってくるのかも

しませんが、観光協会の窓口に適任の人材がいれば、外から引っ張ってくると  
いう考え方もあると思います。

(委員) 先ほどのクリーンエネルギーの話でもそうだが、ビジネスチャンスがあればこの  
ままではいけない。今は利益が小さいが、大きくしていくことによってSNS  
等でPRしたいという人が出てくるかもしれない。

(事務局) 既に分類5の人材についてご意見が出ておりますが、前回までに出された意見  
を資料に載せてございますのでご覧ください。人材の部分に関して、前回までの  
意見の他に何かございましたらご意見を出していただきたいと思いますので、よろしく  
お願い致します。

(部会長) ただ今事務局から説明がありましたが、人材に関して、一人ずつ順番にご意見  
いただきたいと思います。

(委員) 人材というのは、外に宣伝していくための人材なのか、町に住んでいる人たちが  
もっと有意義に過ごせるための人材ということなのかということをお聞きしたい  
です。

(事務局) 前回までに出された2つの分類の人材に関しては、町の情報発信をしていくた  
めの人材をどう発掘していくか、どう育成していくかという部分についての人材  
ということでした。

(委員) そういう人がどこにいるのかは分かりませんが、軽米で育った子供たちの中か  
ら町外で生活している方々に、遠くから見た軽米町という視点で何かアイデア  
を求めてみるということも重要なのではと思います。人ばかりを当てにしないで、  
まずは自分の子供に軽米のことをどう思っているのか聞いてみるとか、その  
子たちに将来を託してみること重要だと思います。外にはアドバイスを  
してくれる方がたくさんいますが、偉い先生方のお話を聞いても町のことを知ら  
ない人たちのお話なので、この町には合わないなと思うこともありました。ここ  
で生まれ育った人たちがどう思っているかということが非常に重要なのではない  
かと考えます。

(委員) 人材育成のために一般に募集して、研修会を開くということが重要だと思いま  
す。

(委員) こういうのをやってみませんかと募集するしかないのでは。人材が確保できれ  
ば、事業が半分成功するようなものなので、非常に難しい部分であると思いま  
す。募集するにしても、本当にこの町を良くしたいと思う人でなければいけな  
いと思うので、各家庭でこういう人を募集しているよと子供たちに向けて発信し  
てもらう。ハイキューで軽米を好きな人にやってもらうというのもいいと思いま  
す。

(委員) 以前応援隊を募集していたと思いますが、その状況とか、仕事人倶楽部という  
NPO法人に委託をして外から見た軽米町を客観的にやってきたと思うのです  
が、その人たちの意見やそれを聞いた役場職員の方の考え等を踏まえながら、考  
えていく必要があるのかなと思います。向かう方向性は自分たちで磨いていかな  
ければいけないと思うのですが、今はバラバラだなと感じています。町全体が一  
つの方向に向かって取り組む方法を考えていかなければならないと思います。

(委員) 町外から応援隊を呼んで町をPRするという方法もいいと思いますが、町とし  
て何をPRしたいのか明確なものがないと、せっかく来てもらっても応援隊の人  
も困ってしまうと思います。やはり地元をよく知っている人が研修を受けて、そ  
こで得た知識を落とし込んで、自分たちの町をどうやって盛り上げていくのかと  
いうことを考えていかなければいけないのではないかと思います。研修に関して  
も、全国には町おこしに成功している軽米より小さな町もあると思うので、そう  
いった所に行ってみるといったのも一つの方法だと思います。そこでどうやって町

- おこしに成功したのかということを読んで、軽米ではどうやったら同じように成功するのかということを考えていけばいいのではないかと思います。
- (委員) 役場の中に仕事や観光を専門にした部門を作ってもらって、ハイキューの関係や町おこしに成功している市町村へ視察研修に行ったりできるように、その分野の専門家になるような人を募集して、長く働けるような環境を作っていくのがいいのではないかと思います。
- (委員) 若い人たちの意見をもっと聞きたいので、こういった場にも入ってもらえるようにしていただきたいと思います。
- (委員) 集いの広場の堀米さんはどういった立場の方なのですか。資金面でバックアップしているところがあるのでは。
- (事務局) 集いの広場の元々の目的は、市日等でお年寄りの方やお客さんが来た時に大町にも足を運んでいただいて、休憩する場を提供して大町の商店街を盛り上げたいという想いでできたということです。そのうちにハイキューのファンが来るようになったのですが、軽米に来てもどこにどうやって行ったらいいのか分からないということで、簡単なマップを作って渡してあげたということでした。徐々に数も多くなってきたので、町としても軽米に来てよかったなと思ってもらいたいと思ひまして、おもてなしの事業を始めようということになりました。県の補助金をいただきながら、常に案内できる人がいなければならないということ、それから撮影時のマナーについて、一般の人が映らないようにしましょう等のマナーが必要だということがありましたので、案内所を開設するための資金は役場から委託という形をお願いをしているというところがございます。役場で作ったマップがあるという話がありましたが、来た人がみんな友好的に楽しんでいるわけではなく、お店の方とのトラブルなんかもありましたので、そういったことがないように、この場所では写真を撮ってもいいよ、お店の中での撮影はご遠慮ください等のマナーを載せたマップを作りました。ファンの方はツイッター等で情報を拡散していきますので、その中で集いの広場さんの情報を共有いただきながら、あそこに行くと軽米のマップがもらえるよなど、ハイキューの総合案内所という位置づけで運営していただいています。
- (委員) 堀米さんは役場の臨時職員のような立場で、給料が出ているか。
- (事務局) 「わ・かるまい」という任意の団体を立ち上げていただいて、その団体に役場から業務委託をして運営資金をお支払しているという状況です。
- (委員) それは先ほども話していた、観光協会の窓口のような役割を成しているということにならないか。
- (事務局) あくまでハイキューに関してのみということになります。
- (委員) そういうのをまとめたものが商工観光になっていく。そこに助成金を出して、ハイキュー以外の部門もできれば、組織として成り立つのでは。
- (委員) 生活できるくらいの補助金が出ているのですか。
- (事務局) 生活できるほどの金額ではないです。
- (委員) それではこの先集いの広場でのハイキューの役割がなくなってしまう危険性もあるということになりませんか。
- (事務局) そういった危険性をはらんでいると言えそうです。現在は役場から委託しているという状況ですが、役場と「わ・かるまい」だけのことではなく、商工会を巻き込んだりして、もっと広い団体構成でやっていくことがもっと盛り上がりにつながっていくと思います。役場でやる、商工会でやるではなく、活動のベースから作っていかねばいけないと考えています。
- (委員) いいヒントが出たのではないのでしょうか。今回話が出たので、どんなことをやっているのか分かったが、知らない人もいます。総務課や産業振興課の役割を含めて、これを発展的に盛り上げていけば、何とかかなりそうな形が見えてきたので

は。しごと・観光部会としては、それをこれから形づけして軽米町の観光案内の拠点にしていく方向を目指すべきだという形で提案すればいいと思います。

(委員) 今お話を聞いて、初めて事の重大さに気づかされました。普段集いの広場の前を通るときは、私たちは入ってはいけないところだと思って見ていました。コスプレをした若い方たちがよくそこに集まっていますが、話しかけてはいけないという感覚でしか見られなかったのですが、私と同じ感覚の人もいると思っています。今日お話を聞いてみて、近くに行ったときはちょっと立ち寄ってみてもいいのかなと思いました。中に入って、どんな案内をしているのか見させてもらってもいいのでしょうか。

(事務局) 大丈夫だと思います。ハイキューのファンの方も地元の人とお話をしたりすることがすごく思い出に残るようです。そういったこともあって、今年夏祭りに参加したいという方がいたのだと思います。ただ夏祭りに関しては、今まで団体をお願いして参加していただくというスタイルだったので、あくまで個人的に参加したい方を積極的に受け入れて、一つのグループを作っていこうというような体制ではなかったもので、台湾の方と気持ちが折り合わなかったところもあると思います。イベント自体も今までのスタイルではなくちょっと変えていくというような考え方でやっていけるのかなと思って聞いていました。

(委員) お会いしたときはご挨拶くらいしてもいいのかなと思いました。

(委員) リピーターが多いのは、広場があって仲間で集えるようなこともあります、町の人たちの努力があるからだと思います。みんな優しいし面白いし、仲町のひとは寒いときは家の中に入れてお茶を出したりしているので、そういったことがあってまた来たいと思う。道を聞いた人も親切で、中には乗せていくかと言ってくれる人もいます。私には年賀状もくれます。

(委員) そういった情報が知られていない。

(委員) 今出された意見はとても重要なことだと思います。集いの広場がどこにあるかも知らない人もいます。それを発信して町内の人にお知らせするのがかるまいテレビのかるまいジャーナルじゃないかと思う。総務課では集いの広場の人たちに業務委託をしてこんなことをしています、という番組を5分でもいいからジャーナルに含めていけば、それを見た人が気になってどんどん広まっていくのでは。取材するのはお金がかからない。

(委員) ハイキュー自体を知らない人も中にはいると思う。

(事務局) かるまい広報でも何度か紹介したことはあります。かるまいテレビとなると、いろいろと気を使わなければならない部分もありますが、今後の参考にさせていただきます。

(委員) 集いの広場を取材すること自体に問題はないか。

(事務局) それは大丈夫だと思います。

(部会長) 今まで出た意見の中で、次の分類6のイベントや分類7の環境の部分に関わるものもありましたので、合わせて進めてもよろしいでしょうか。

(事務局) 分類6はイベントに関する意見、分類7は環境に関する意見を分類したものになりますが、資料にある意見以外の部分で何かあればお願いします。

(委員) 先ほどの夏祭りの話で、また台湾の方から流し踊りに出たいという話があれば、笹渡子ども太鼓で受け入れてもらえるかということを確認しておけば、間違いなくそこを紹介できるのでは。

(委員) いつでも受け入れます。先日の夏祭りでも、子どもたちが踊っている動画を撮って台湾の人にラインで送って、それを見て練習していたということですが、動画を見ただけだと踊れないということで、夏祭りの当日に体育館に来てもらって2時間ほど一緒に練習しました。日本語はほとんど話せませんでしたが、大清水



旅館の奥さんに通訳をしてもらいながら練習しました。対応できる場所があれば、こういったこともいいと思います。

(委員) 町内の団体でも受け入れにくいところもあると思います。笹渡は子どもたちが中心の団体なので、受け入れやすいところもあると思うので、今後のためにも受け入れる体制を考えておいたほうがいいと思います。

(委員) 子どもたちは受け入れてもいいと言っています。英語の勉強の一環にもなりました。台湾は母国語が中国語ですが、共通語は英語だそうで小学校から勉強するそうです。笹渡子ども太鼓には中学生の子もいるので、英語で会話する交流の場にもなったし、子どもたちにとって刺激になったので、すごく良かったと思います。ただ、特別賞でもいいから賞が欲しかったと言っていました。頑張っているのに賞がないと子供たちのやる気もなくなってしまうかなと心配するのですが、毎年やると言ってくれるので大人もみんな応援しています。

(事務局) 来年に向けて相談してみたいと思います。

(委員) 毎年開催しているイルミネーションやハイキューフォトロケーションに併せて、SNSによるPRも含めたインスタキャンペーンを企画してみてもどうか。一般企業ではスタンダードになっているが、フォトロケーションやイルミネーションを写真に撮ってSNSに投稿してもらって、その中から一番いい写真を撮ってくれた人に軽米の特産物をあげるという内容。そういったイベントがあると、みんな頑張って写真を撮ってくれるし、町内の人も参加できると思います。手軽にできる方法なのでぜひやっていただきたい。景品を贈るだけだともらって終わりになってしまうが、それに加えて軽米町で使える商品券をあげれば、町内にも来てもらえるようになるのでは。それから、かるコンについてここ何年かハロウィンの時期に開催していて、参加条件がコスプレすることとなっているが、コスプレがネックになって参加者が増えないということも考えられる。ハイキューもあって、軽米はコスプレという印象がありますが、地元の人にはあまり浸透していない。来年は別のイベントを企画して、コスプレなしで気軽に参加できるようにしてみても。都会の方では婚活や恋活という構えた括りではなく、体験型の交流イベントとして企画されていることが多い。例えば料理教室で男女が協力して作業をしながら交流をする内容だったり、一緒に体を動かしたりしている。軽米でいえば、折爪岳のトレッキングやヒメボタルの観賞と合わせてみる。町内だけではなく、ハイキューで来た人たちとの若者の交流の場としてイベントを開催してもいいと思いますし、それにプラスして観光業に繋げていくというやり方もあるのでは。

(事務局) 先日冬灯りの実行委員会を開催しまして、飾り付けの範囲や規模について話し合いました。今年は企業や子ども会を含めた各団体に公募して、飾り付けから撤去までお願いしたいということを広報等で周知し、お願いして歩きたいと思っています。向川原の方たちだけではなく、みんなでやっていかないといけないと思っています。その中で、インスタのイベントについても今年は取り組んでみようという話も出ていますので、イルミネーションをインスタに投稿してそこで結果を発表するという内容で考えています。総じた結果として広報に載せることが可能かと思いますが、依頼等の内容についてはインスタという媒体の中で見られるということになります。先日ハイキューのイベントをやった時もそうだったので、やはり今の若い人たちはSNSでの周知が全てなようです。ポスターやチラシを作ってもほとんど見てくれなくて、何を見てきましたか？と聞くとSNSだというアンケートの結果が出ていますので、SNSの影響力は大きいなという実感があります。そういった部分も含めて、今後SNSについては検討していきたいなと考えておりました。

(事務局) 人を撮って投稿すると問題が発生する可能性がありますので、今回はイルミネーションを撮影したものをInstagramに投稿してもらって、それを実行委員会で審査して一番好評だったものには賞をあげたらいいのではという話をしています。フォトセッションやコスプレになると、映りたくない人も投稿されてしまうということも考えられますので、そういった部分にも気を付けながら、少しずつやっていきたいと考えています。

(部会長) その他にイベントについて何か考えていることはありますか。なければ、観光の部分は先ほど出ていましたので、今日のテーマ4から7で言い残したことがありますでしょうか。

(委員) 以前も言いましたが、秋祭りに天狗のお面をつけて全員参加して、10年後には観光客10万人を目指して頑張るませんか。

(事務局) お面を付けるのは山車を引っ張る人を含めてですか。

(委員) 町全体でできれば面白いと思う。祭りを見る人も出る人も。商売してる人も付けたらいいと思う。それくらいやらないとこの町は沈んだままで浮かばない。

(部会長) その他どなたかございますか。なければ協議を終わります。

(事務局) それでは次第の3番その他になりますが、皆様から何かございますか。なければ事務局からの連絡事項になります。しごと・観光部会の会議は本日で終了となります。今後の予定については、軽米町百人委員会の全体会の開催通知が総務課さんから届く予定となっております。その全体会におきまして、これまでのしごと・観光部会で皆様からいただいた貴重なご意見をご報告させていただくこととなります。その際に報告する提言内容につきまして、今日までの部会を踏まえて事務局で資料を作成したものを委員の皆様へ郵送したいと考えております。その中で何かご意見があった場合は事務局の方に返していただき、それを踏まえたうえで、全体会で提言させていただくということによろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(事務局) ではそのようにさせていただきます。

(委員) 全体会はいつ頃開催する予定ですか。

(事務局) 11月下旬から12月上旬の予定です。

(事務局) その時期に合わせて事務局で提言書を作成して皆様にお送りいたしますので、よろしくお願い致します。それでは、以上を持ちまして第2回しごと・観光部会の会議を終了させていただきます。活発なご意見をいただきまして大変ありがとうございました。

○閉会